



発行 社会福祉法人 聖友ホーム
聖友乳児院（乳児院）
聖友学園（児童養護施設）

聖友ホーム応援団 聖友ホーム ささえ隊 会員募集中！

「ささえ隊」について詳しくはHPまたはチラシをご覧ください



子どもの育ちをつなぐライフストーリーワーク(LSW)の
実践を深めるために

聖友学園・聖友乳児院合同

「LSWプロジェクト」を発足！



今年度よりスタートしたLSWプロジェクトでは、スーパーバイザーにLSWの第一人者である立命館大学の徳永祥子准教授をお迎えし、長期的なご指導をいただきながら専門性を深め、これまで聖友学園、聖友乳児院がそれぞれに取り組んできたLSWに連続性を持たせていきたいと考えています。8月にはこのプロジェクトの取り組みが「施設の合築に合わせたハードとソフト両面の充実」といった視点で福祉新聞に掲載されました。(2021.8.9)

プロジェクトは現在、“ケース検討チーム” “ツール作成チーム” “実践報告書チーム”の3つのチームに分かれてそれぞれが目標を設定し、他チームとの協働、連携を行いながら進めています。

今年度の各チームリーダーより、目標と抱負を語っていただきました。

ケース検討チーム

チームの目標は、今後のケース検討の基本となる検討方法を確立することです。そのために、今年度はLSWのベースとなるようなケースを選定し、どのケースにも必要な情報とは何か？ 子どもたちが知りたいことはどんなことなのか？をチーム全員で考え、協議していきたいと思っています。初めての取り組みのため、不安もありますが試行錯誤しつつよりよいものを見つけていきたいです。

(乳児院 家庭支援専門相談員 酒井真美)



ツール作成チームはLSWに必要な様式の検討や実践に必要な意見の聞き取りを目的としたチームです。子どもたちが健やかに成長していくために、どのような実践ができるのか、またそれをどのように職員がやりがいを持って取り組めるのかを考えていきます。職員が子ども1人1人の足元にしっかりとした基礎を築き、子どもたちが未来に向かって行けるように支援したいと思っています。

(学園 児童指導員 小澤想也)

ツール作成チーム

実践報告書作成チーム

目標は、「聖友ホーム職員にライフストーリーワークについて知ってもらう」です。今年から発足したプロジェクトなので、まずはどのような取り組みをしているかなどを、全職員に理解してもらえるような報告書を作成したいと思っています。今はコロナ禍なので実現は難しいと思いますが、落ち着いたら報告会などを行っていきたいと考えています。チーム全体で協力し、より良い報告書が作できるよう頑張ります。よろしくお願いします。

(乳児院 保育士 稲垣詩乃)



卒園生 **インタビュー****園の外への第一歩
自立への応援**

今回は施設を巣立った卒園生にインタビューを実施しました。学園での生活、自立してからの生活、それぞれの状況でのお金事情（やりくり）について、いろいろと話してくれました。

松坂
基金

＜子どものお金事情 C・S君の場合＞

聖友学園には高校1年から3年間いた。この春に卒園して一人暮らしもようやく半年たった。今は介護施設で働いている。介護の仕事は不規則で肉体労働。でも自分には今のところ体力がない。それが今の問題。料理が好きで本当は自炊をしたい。だけどいつも仕事で疲れはててコンビニ弁当の生活。体力的にとってもきつい。上司は「若いからこれから体力がつく」と言ってくれるけど。

聖友学園にいるときは月6000円の小遣いがもらえていた。バイトもしていた。バイト代から月5000円は小遣いにできた。小遣いを、本、ゲーム、遊びに行くときの交通費などに使った。小遣いは自分の財布で管理していた。しかし必要な分のお金を少しずつ渡される方式の子どももいた。小遣いの管理方法は人による。小遣帳を作らないといけなかった。小遣いの使いみちはチェックされていた。変なものを買うわけではないのでそれに不満はなかった。

「ただ、自分はゲームが好きで、自分の部屋にモニターにするTVがほしくて」

職員さんにお小遣いで買ってよいか相談したけど、ダメと言われたことがあった。

バイトするのは卒園後の資金を貯めるため。聖友学園にきてすぐにはバイトができなかった。職員さんに背中を押される感じで始めた。自分には家庭に戻る選択肢がなかった。自立のためには貯金しないといけなかった。飲食店のホールの仕事で、週4日、1日3時間、バイトした。そのときも立ち仕事で体力的には

大変だった。小遣い以外は貯金した。お金の管理は職員さんがしてくれた。コロナの影響でバイトができなくなった時期があった。

「そのとき聖友学園にある松坂自立援助基金からバイト代を補填してもらえた」

それもあって卒園のときには貯金の目標額をクリアできた。自分で稼いだ貯金にもらえた支援金もあわせると100万円くらいの資金になった。そこから一人暮らしや仕事に必要なものを買った。TVも買った。まだ40万円くらいの貯金は残っている。

卒園してもお金の管理は聖友学園の職員さんに引き続きお願いしている。管理委託契約というのを結んでいる。給料の入る銀行口座を預かってもらっている。

「そこから毎月の生活費を必要な分だけ送金してもらおう。そういうサポートを卒園後もしてもらえるのはとても心強い」

自分は会社の借上げ社宅で家賃負担がないので、今も貯金はできている。

高校3年の夏ころからNPOの主催する「巣立ちセミナー」に参加した。一人暮らしをするにあたってとても役に立った。一人暮らしするには色んな知識が必要。自立のためにはお金以外にも大切なことがある。今もNPOには継続的にサポートしてもらっている。セミナーに参加してよかった。

「聖友学園の後輩たちにもぜひセミナーに参加してほしい」



——（卒園生C・S君へのインタビューから）

松坂
基金

＜施設から＞

一般的に「小遣い」と呼んではいるのですが、正式には「生活指導訓練費」と言い、公金で支給されているお金だという事情があります。生活指導訓練とは、子どもたちが将来社会人となった時を想像し、限られた収入で何にどう使うか、という計画を職員とともにたて、実施し振り返りながら訓練し、力をつけていくためのものです。施設の子どもたちは社会

での自立を早く求められます。退所者アンケートでも金銭管理で苦労している様子がうかがえます。施設にいる間に少しでも金銭管理を学んでもらいたい。そのための小遣い管理です。職員は子どもたちの能力向上のため日々

細かな支援をしています。C・S君がTVの購入を希望したときも、部屋にこもってしまい生活リズムが乱れないかとの心配を伝え話し合ったうえで、TVは買わないことになりました。

(聖友学園長)



『お楽しみ遊園地』 (運動会代替行事) の開催



当院の大きな行事の一つに運動会があります。例年であれば、両クラス合同で中庭で開催し、保護者との交流を交えながら競技に参加したり、学園の幼児さんを招待し参加してもらったり、最後には皆でお弁当を食べたりしています。



しかしながら、昨年度はコロナ禍で子どもたちは思うように外出ができず、中止になってしまう行事が多くありました。残念ながら今年の運動会も例外ではなく、開催が難しい状態でした。そこで、何とか子どもたちに楽しい経験をさせてあげられないかという思いからお楽しみ実行委員会では運動会に替わる行事を考え、『お楽しみ遊園地』を開催しました。



『お楽しみ遊園地』は運動会の要素(身体を動かす)を取り入れつつ、遊園地をイメージして「巨大迷路」「宝探し(巨大ボールプール)」「障害物コーナー」の3つのコーナーを作り、そこを自由に往来できるようにしました。また、例年作っていた万国旗は遊園地仕様で三角旗にして飾ったり、子どもたちの大好きな昼食は調理員さんにお弁当を作ってもらったりしました。



当日は初めて見る迷路に怖がる子ども、大きなボールプールに大興奮の子ども…と様々でしたが、私たち委員が想像していたよりもはるかに熱量の高いイベントとなりました。

感染症対策の検討を繰り返したり、ボールプールのボールが不足し風船でかさ増しをする等心配や失敗も多々ありましたが、周りの職員の助けもあり無事開催に至り、子どもたちが喜び、楽しんでいる姿を目にし、今までの苦労が報われた思いでした。

来年度どのようになるかは分かりませんが、今回の経験や反省を活かしつつ、子どもたちが特別感を感じられ、記憶に残るような楽しいイベントの開催ができればと思います。

お楽しみ実行委員会委員長 雄山麻衣子



母の背中

今 綾乃 (乳児院クラス主任)

娘がまだ2歳頃の事。私が夜勤に行く準備をしていると、「どうしてママは赤ちゃんの所に行かなくちゃいけないの？」と行く手を阻むように話してきました。娘の気持ちも考慮しつつ、「赤ちゃんたちはパパやママと寝る事が出来なくて寂しい思いをしているから、安心できるようにお仕事をしているんだよ」と答えると渋々納得をしてくれ、私を夜勤に送り出してくれました。

それ以降、乳児院の仕事の内容に興味を持ち、「今日赤ちゃんと何して遊んだの？」と尋ねるようになったり、使わなくなった玩具や服を乳児院の子どもたちにあげたいと話すようになりました。

そして数年経った頃、娘の将来の夢は「保育士になること」でした。私の仕事を理解してくれ、応援し、目指してくれている事を知り、嬉しい気持ちと、恥じないような仕事をしようという責任感がさらに生まれました。乳児院の子どもたちへの焼きもちもあったことでしょう。その気持ちを乗り越え、自分より小さな子どもたちを思いやる気持ちを持ち始めた事を知り、とても感慨深いものがありました。

私はこの仕事を始めてから、【子どもも大人も楽しく過ごす】という事を大切にしてきました。これから乳児院は少しずつ機能が変わってきます。新しい事を始める時は困難な事が沢山ありますが、そんな時こそ、どうしたら子どもも大人も楽しめるかを考え、娘にも恥じる事が無いよう、背中を見守っててもらいたいと思います。



「基本設計完了、実施設計へ」

— 合築事業に向けての展望と報告 その②

本誌の前号で施設整備事業（建替え）がスタートしていることをご報告しました。約1年かけた基本設計が完了し、建物の配置と大きさが決まり、その中に、子どもたちの住居、ショートステイ用ホーム、調理、用務、医務、心理などの専門室、親子訓練室、自活訓練室などが設けられ、それら各室の配置もすでに決まっています。現在は実施設計の段階に移行し、各室の仕様を検討中です。子どもを預かる施設としては、コンセプトの位置、高さも大切になるので、職員の意見をヒアリングしながら設計を進めています。

